

は、澄榮政親に黨して勝つた。次いで十七年澄榮は將軍足利義尚の爲に國家安全の祈禱を修するを以て、その下知狀を興へられんことを請ひ、九月八日之を得たので、物を獻じて謝したことがある。白山本宮が祝融の災に罹つたので、神靈を三宮に遷座せしめたのも、この澄榮の時文明十二年十月十六日であつた。

チヨウエイジ 長永寺 羽咋郡一宮寺家に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウエイジ 長榮寺 鳳至郡里に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウエンジ 長圓寺 能美郡小松本折町に在つて、眞宗東派に屬する。初め同郡中村に居り、慶長中向本折に轉じ、承應元年更に今の地に移つた。

チヨウオンジ 潮音寺 鹿島郡外原に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウカクジ 超覺寺 石川郡美川に在つて、眞宗東派に屬する。もと小松勘歸寺の寺中であつたが、明治三十七年八月今の所に移つた。

チヨウカクジ 長覺寺 鳳至郡房田に在つて、眞宗東派に屬する。山號は虎龍山。もと同郡麻野に居たが、明治十九年今の地に轉じた。

チヨウカクジ 長覺寺 珠洲郡川尻に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウカケツラ 長景連 長秀連の義子連之が越後に脱走してから四代の孫で、黒瀧に住した爲に家を黒瀧長と呼ばれた。通稱は興市。天正四年上杉謙信の能登に侵入した後、景連は珠洲郡正院城に鎮したが、七年温井景

隆の攻撃を受けて越後に逃走した。然るに十年上杉景勝がその部將をして越中魚津城に據らしめた際、五月景連は自ら募兵を率ゐ、海路前田利家の封地能登に入つて鳳至郡黒木城を占領した。景勝が未だ越中をすらすら平定し得ざるに、景連のかゝる暴舉を敢行したのは、先に逃走した耻辱を雪がが爲で、景勝の承認を経た行動ではなかつたのである。この時長連龍は利家等と共に魚津征討軍中に在つたが、直に歸つて景連に降服を勸告した。黒瀧長が義に於いて連龍と一家の誼があつたからである。しかも景連はそれに應じなかつたので、連龍は同月廿二日黒木を攻撃し、連龍の臣小林平左衛門は景連を討取つた。この役利家は久兵衛直泰を派して監軍とし、富田治部左衛門景政を七尾に遣はして、七尾の城代前田五郎兵衛安勝と共に援軍に備へしめた。戦後連龍は捷を利家に報じ、且つ鈴木因幡をして景連の首級とその帯びた刀とを獻らしめた。後前田氏の重寶となつた丈木の刀といふものは是である。

チヨウカンジ 長寛寺 中宮八院の一つで、源平盛衰記には北四ヶ寺の中に數へてゐる。白山記には之を輕海郷内に在ると記し、寶永誌又は三州名跡志には、能美郡中村領に昔長觀寺といふのがあつて、その寺跡がチャウクワンジといふ田地になつてゐると記して居る。中村は輕海村と正蓮寺村との間に在つて輕海郷内に屬する。

チヨウガンジ 超願寺 金澤木町に在つて、眞宗東派に屬する。初め石川郡柏野に居たと

いふ。

チヨウガンジ 超願寺 河北郡氣屋に在つ

て、眞宗東派に屬する。明治十一年十二月寺號の公稱を許された。

チヨウガンジ 超願寺 鳳至郡皆月に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウガンジ 長願寺 珠洲郡眞脇に在つて、眞宗東派に屬する。能登名跡志に「長願寺といふ一向宗あり。此の本尊彌陀佛は行基の作。是も峠の古寺の本尊の由。」と記する。

チヨウキユウ 長久 ↓オホノチヨウキユウ 大野長久。

チヨウキユウイン 長久院 前田利春の三女で、利家の妹。天文十二年尾張荒子に生まれ、その名を津世というた。初め前田源介に嫁し、永祿元年源介戦歿の後高島石見守定吉に再嫁し、定吉の卒後落飾して長壽院と號し、慶長十五年八月三日歿、齡六十八。長久院椿庭久壽大禪定尼と諡し、金澤郊外大豆田栖覺寺に葬つた。栖覺寺は後に野田寺町に移つて、長久寺と改めたものである。

チヨウキユウジ 長久寺 金澤野田寺町に在つて、鶴雲山と號し、曹洞宗に屬する。寺記に、慶長二年高島石見守定吉の室長久院(生前は長壽院)、僧愚庵の爲に栖覺寺を郊外大豆田に建てたが、後長久寺と改めて高島甲斐の下邸に移した。尋いで前田利長は長久院の粧田三十石を寄進し、寛永十二年その寺地を收め、覺源寺の廢址たる今の地を賜はり、承應四年利常は寺封を増して五十石とし、延寶四年長久院の影堂を建立したとある。

チヨウキユウジ 長久寺 金澤裏金屋町に在つて、妙光山と號し、日蓮宗に屬する。貞享二年の由來書によれば、越中今石動本行寺の日統が文祿二年に創立した所であり、玉泉

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

チヨウキユウジ 長久寺 石川郡高尾に在つた。龜尾記に、高尾山護摩堂といふ所に、法華宗法性山長久寺があつたが、高尾落城の時共に燒亡したとある。

チヨウキユウジ 長久寺 鹿島郡小島に在つて、日蓮宗に屬し、元龜二年日瑞の草創とする。大正中岐阜縣に轉じた。

チヨウキヨウジ 長教寺 羽咋郡笹波に在つて、眞宗東派に屬し、大乗山と號する。

チヨウキヨウジ 長慶寺 鳳至郡宇津津に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウギン 丁銀 加賀藩の銀貨は萬治の頃及び菊極印の朱封銀のみとなつたが、前田綱紀の寛文七年四月に至り、幕府發行の丁銀・大豆板銀を混用し、やがて朱封銀を停止すべき令を發した。是に於いて京都の銀座は、丁銀・大豆板銀を輸入して朱封銀と交換したが、その相場は朱封銀百目に對し丁銀又は大豆板銀百二匁であつた。この時輸入せられた丁銀・大豆板銀は慶長六年發行のもので、九年六月より十年十二月に至るまでに引換を了し、十一年正月全く朱封銀の通用を停止した。丁銀は元來鋌銀と書くべきであるが、延銀とも丁銀とも略書し、南延又は南鐘ともいうたものである。大豆板銀は俗に小玉といひ、京都では小粒というた。大豆板銀の加賀藩に於ける通用を、武家混目集等に承應三年からとするは誤である。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

チヨウキユウジ 長久寺 石川郡高尾に在つた。龜尾記に、高尾山護摩堂といふ所に、法華宗法性山長久寺があつたが、高尾落城の時共に燒亡したとある。

チヨウキユウジ 長久寺 鹿島郡小島に在つて、日蓮宗に屬し、元龜二年日瑞の草創とする。大正中岐阜縣に轉じた。

チヨウキヨウジ 長教寺 羽咋郡笹波に在つて、眞宗東派に屬し、大乗山と號する。

チヨウキヨウジ 長慶寺 鳳至郡宇津津に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウギン 丁銀 加賀藩の銀貨は萬治の頃及び菊極印の朱封銀のみとなつたが、前田綱紀の寛文七年四月に至り、幕府發行の丁銀・大豆板銀を混用し、やがて朱封銀を停止すべき令を發した。是に於いて京都の銀座は、丁銀・大豆板銀を輸入して朱封銀と交換したが、その相場は朱封銀百目に對し丁銀又は大豆板銀百二匁であつた。この時輸入せられた丁銀・大豆板銀は慶長六年發行のもので、九年六月より十年十二月に至るまでに引換を了し、十一年正月全く朱封銀の通用を停止した。丁銀は元來鋌銀と書くべきであるが、延銀とも丁銀とも略書し、南延又は南鐘ともいうたものである。大豆板銀は俗に小玉といひ、京都では小粒というた。大豆板銀の加賀藩に於ける通用を、武家混目集等に承應三年からとするは誤である。

チヨウクニツラ 長國連 盛連の子。母は

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。

院夫人の御祈禱所で、元和六年十一月その化粧田加賀郡大衆免の内四俵三斗七升を賜はつたが、夫人の歿後之を返したとある。境内の妙見堂は卯辰妙見といはれる。